

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	法学研究科
大項目	0 理念・目的 (研究科)
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 研究者および高度専門職業人の着実な養成を実現するために入試制度を見直し、学位取得プロセス、学位審査基準を明確化し、公表する。	→ 「定員充足率」 「博士前期課程エキスパートコース修了者の就職状況(就職決定率と就職決定先)」 「大学院学生対象の授業評価実施回数」 「大学院入試説明会の開催時期と開催回数」 「大学院広報掲載雑誌数・パンフレット作成の有無」	C	C	B	B	
	→					
	→					

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	研究科の理念・目的の設定・公表と定期的な見直しの制度化はすでに実現しており、入試制度の見直し、学位取得プロセスと学位審査基準の明確化と公表も2012年度には実現した。しかし、法学研究科の定員充足率は、50%台にとどまっている。学生の水準を維持しつつ定員を確保する上では、大学院広報の充実が求められるが、大学院入試説明会の開催時期や方法の見直しは行われつつあるものの、大きな進展は得られていない。
備考	